



*more***Trees**®

-
-
-
-
-
-
-

2021年活動報告書

01. 目次 / メッセージ
02. more trees のビジョン
03. 森の現状と課題 / more trees の森
04. more trees の取り組みとSDGs / 2021年の実績と成果
05. 多様性のある森づくり

森林プロジェクト実施状況

06. 北海道 美幌町
07. 岩手県 住田町 / 奈良県 天川村
08. インドネシア 東カリマンタン州

普及啓発事業

09. 講演 / イベント / ワークショップ

ものづくり事業

10. オリジナルプロダクト / コラボレーションアイテム / 空間
11. 脱炭素社会に向けて
12. 企業の森
13. 協賛事例
14. 協賛者様一覧
15. 法人概要

メッセージ

2021年は「脱炭素元年」ともいえる年でした。

日本政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表し、アメリカでは2021年1月に就任したバイデン大統領が政策の中心に環境を据え、気候変動対策の国際的な枠組みであるパリ協定にも正式復帰しました。

これまでに120か国以上が2050年のカーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。

こうした流れは業界にも及んでいます。各国が脱炭素を推進する法律や規制を強化することでビジネスのゲームのルールが変わってきており、そのルールに対応しないとビジネスが成立しなくなっているのです。

こうしてグローバル企業のみならず、業界全体で脱炭素経営に向けた取り組みは急速に活発化しています。

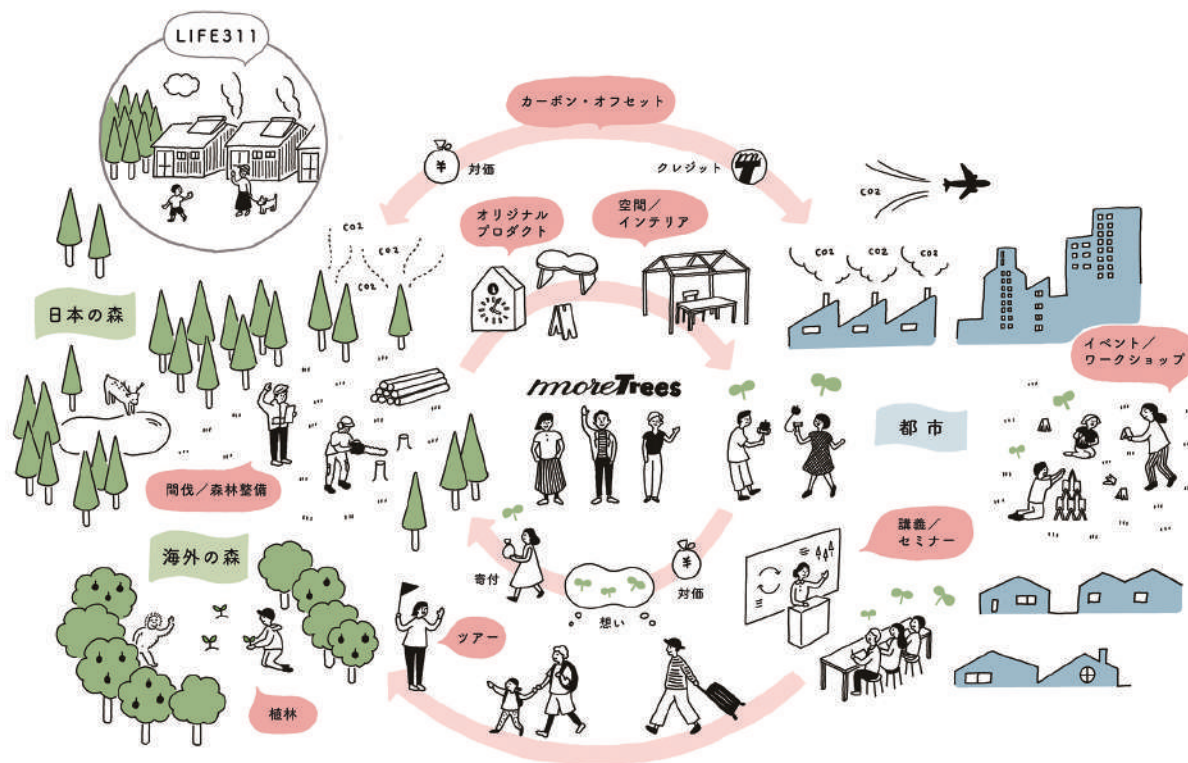
森林は大気中のCO₂を吸収・固定することから、脱炭素を目指す政府や企業からの注目が高まっています。

私たちはこうした追い風を感じながらも、CO₂吸収のみならずさまざまな機能が発揮できる森林づくりを目指し、粛々と活動を続けてまいります。

引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

more trees事務局長 水谷伸吉

森と人がずっとともに生きられる社会を目指して



more treesは

「都市と森をつなぐ」森林保全団体です。

一般社団法人more trees (モア・トゥリーズ) は、
音楽家 坂本龍一によって

2007年に設立された森林保全団体です。

いま世界は、気候変動や生物多様性の危機など、
森林の減少がその一因と言える

さまざまな問題を抱えています。

状況は深刻で、解決はおろか、

改善も容易ではありません。

それでも、目の前にあることから取り組む
という姿勢を、私たちは大切にします。

more treesは、森林が持つさまざまな機能の

回復を目指した保全活動のほか、

森からは製品・サービス・情報・体験などを

都市に届けること、都市からは森の恵みの対価を
受け止めた人々の思いや

経済的な対価を森に還すことで、

「都市と森をつなぐ」活動を行っています。

この循環を生み出し高めていくことが、

私たちの考える“森づくり”です。



世界の森

世界では、1秒間にテニスコート15面分の森が消失していています。特に問題となっているのが、豊かな生物多様性を支える熱帯雨林などの減少です。木材の利用を目的とした商業伐採や、農地(プランテーション)や牧草地への転換を目的とした野焼きによる開墾が引き起こす森林火災など、人間の経済活動が熱帯雨林減少の大きな原因となっています。また、地球規模での森林減少は、気候変動に大きな影響を与えています。



森林火災(インドネシア)

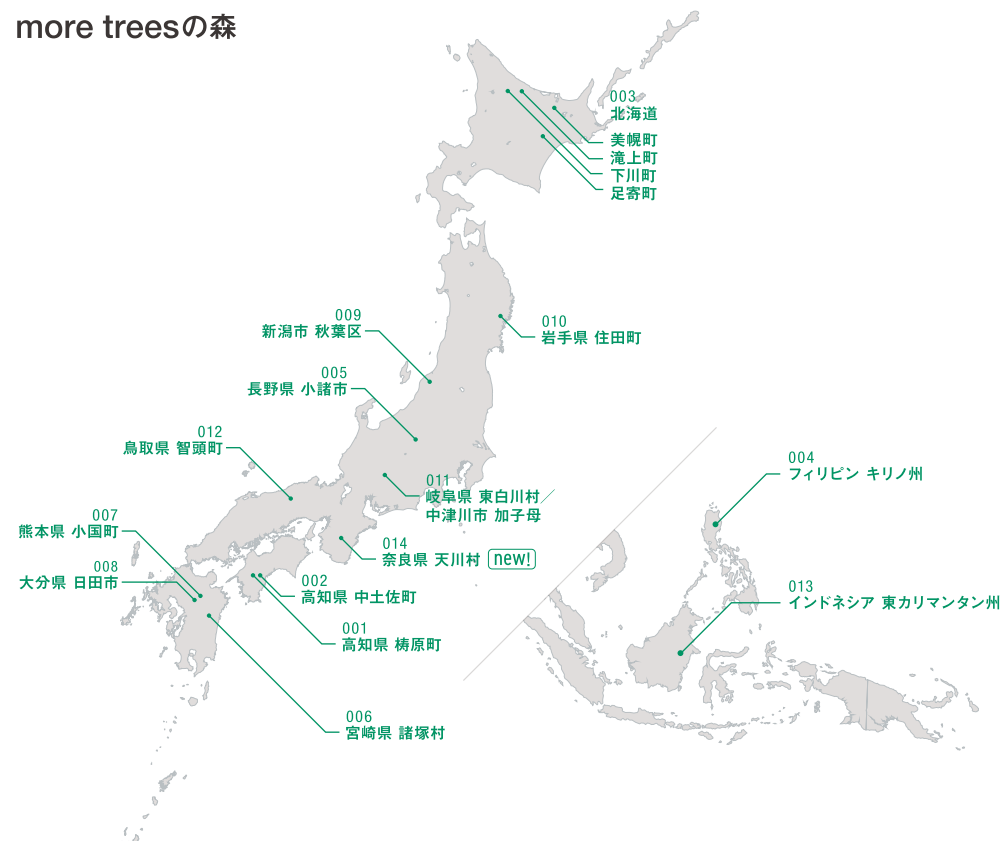
日本の森

日本は国土の約7割が森林に覆われる森林大国です。戦後の木材不足により、国によってスギやヒノキなどの植林が推進されたことで、人工林を中心にこの100年間で日本の森林面積は増加しました。しかし、近年は木材需要が減少し、林業が衰退した今、この先手入れがされないであろう人工林が増えています。また、日本には主要な樹木が500種類以上あるといわれていますが、スギとヒノキの2種類のみで人工林の約7割を占めるまでになっており、森林の多様性が失われている状態です。



手入れが進んでいない人工林

more treesの森



私たちは、国内16か所(12地域)、海外2か所に「more treesの森」を展開し、森の保全活動を行っています。森の保全は、ただ木を伐らないこと、木を植えることだけでは実現できません。地域によってその方法はさまざまであり、活動の主役となるのはその土地に暮らす人々です。私たちは、地域の人々もつ林業の技術や知識を最大限に活かすことで、その土地ならではの森林保全につながれると考えています。そして、その土地に暮らす人々の生活が経済的にも適切に維持されるよう、方法を一緒に考え、実践のサポートをしています。

more trees の取り組みと SDGs

2015年に国連で採択された「SDGs (持続可能な開発目標)」の概念を表す構造モデルとして、「SDGsウェディングケーキ」と呼ばれるモデルがあります。このモデルでは、3つの階層「経済圏」、「社会圏」、「生物圏」によって構成されており、経済活動は安定した社会に支えられ、その社会は自然資本によって支えられていることが示されています。

つまり、自然資本なくして社会や経済活動は成り立たないのです。

森林は、自然資本の中でも陸の生態系を担う重要な位置を占めるだけでなく、水資源や気候変動にも大切な役割を果たします。

私たちは、森林が持つ多くの恵みをさらに引き出しながら、都市と森が寄り添える社会に向けて、より一層励んでいきたいと考えています。



出典: Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University

2021 年の実績と成果

2021年も森林保全活動をはじめ、セミナーやイベント、ワークショップなど都市と森をつなぐさまざまな活動を実施いたしました。

植林した本数

13,541 本



植林した面積

104,800 m²



除伐、間伐した面積

128,700 m²



講演の延べ聴衆

※インスタライブの視聴含む

約 59,500 人



森林によってカーボンオフセットが
実現した量

994 t



植樹イベントの参加人数

45 人



シンポジウムや講義に
登壇した回数

18 回



木育ワークショップを
体験した人数

320 人

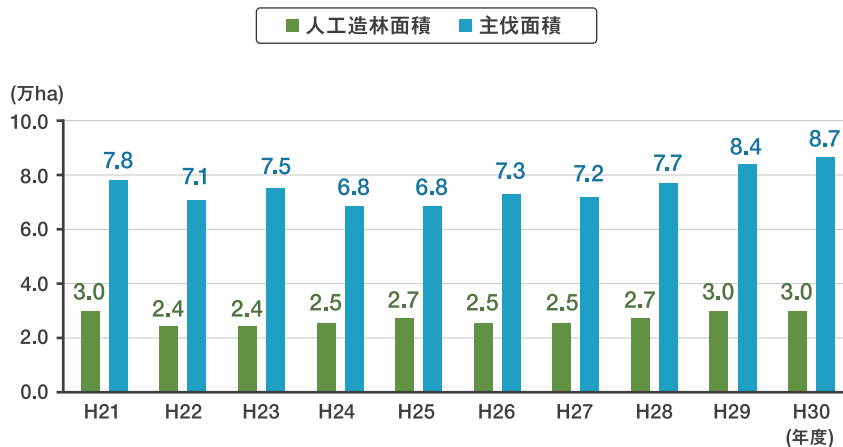




戦後に植栽されたスギやヒノキなど人工林の多くは林齢が50年程度になり、収穫可能な時期を迎えています。こうした背景から、全国的に人工林の皆伐（一定の面積の木を全て伐採する方法）が増加傾向にあります。

一方で、伐採跡地に対して再び植林するための費用が捻出できない、あるいは林業の収益性が将来的に見込めないなどの理由で皆伐後に放棄されたままの未植栽地も増えています。このような再造林放棄地は皆伐地全体の6～7割ともいわれ、未植栽の状態で放置することが土砂災害などの要因の一つになっているという指摘もあります。

こうした背景を踏まえ、政府は2021年6月に策定した「森林・林業基本計画」において、2030年までに1億本の植林を目指すという目標を掲げました。



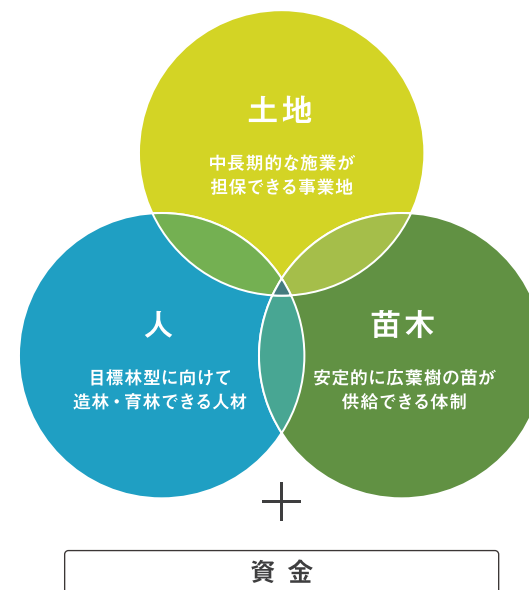
出典：「多様で健全な森林への誘導」林野庁（2020年10月）
※ 民有林の主伐面積は推定値

more treesでは、伐採跡地や木材生産に適さない土地に植林されたために今後も手入れされる見込みがないスギやヒノキなどの人工林を、単一樹種のみでなくさまざまな樹種を混在させた森林に更新していくことを目的に、2018年より「多様性のある森づくり」に取り組んでいます。

「多様性のある森づくり」には「土地」「人」「苗木」の3要素が欠かせません。

- ①土地：中長期的に施業が可能な、持続性の担保された事業地
- ②人：目標とする林型をもとに造林・育林が実施できる、地域に根差した事業者や人材
- ③苗木：地域の遺伝子を受け継いだ苗木の安定供給

more treesでは森づくりと並行して、各地で視察研修会やワークショップを実施するなど、これら3つの要素を満たす地域を増やすためのキャパシティビルディングにも注力しています。





地域と協働で進める「多様性のある森づくり」の取り組みは徐々に全国に広がっています。その中でも今年、特に動きがあったプロジェクトについてご報告します。

北海道 美幌町



project 003

北海道 美幌町

美幌町は北海道東部に位置し、阿寒摩周国立公園内にある美幌峠をはじめ、多くの観光客が訪れる自然豊かな町です。

2021年は、美幌町にて「企業の森」を展開する3社のご支援により、町内各地で「多様性のある森づくり」のプロジェクトを進めることができました。

登栄（といえ）地区では、2019年より継続的にご支援いただいている、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様のサポートにより植林を行いました。4ヘクタールの土地にミズナラ、ヤチダモ、シラカンバ（白樺）の3種類を合計6,152本植林し、本地区での植林は累計12ヘクタール、18,456本となりました。

2021年からは、株式会社ロイヤリティ マーケティング様、株式会社I-ne様のサポートにより、新たに日並地区での植林も開始しました。「JAびほろ」の日並牧場敷地内では、ロイヤリティ マーケティング様のご支援で1ヘクタールの土地にミズナラ2,000本を植林しました。この土地は美幌町で使用されている水道水の水源となっている山林に隣接しており、水源涵養機能の点からも重要なエリアです。またI-ne様のご支援で同地区の0.5ヘクタールの土地にハンノキ1,000本の植林を行いました。同社ブランドの一つである「BOTANIST」の商品にホワイトパーチウォーター（シラカンバ樹液）が使用されていることもあり、今後はシラカンバの植林も予定しています。



ミズナラ



Pontaの森 (株式会社ロイヤリティ マーケティング様)



BOTANISTの森 (株式会社I-ne様)



岩手県 住田町

奈良県 天川村

project 010

岩手県 住田町

住田町は、岩手県の東南部に位置する内陸の町です。アユやヤマメ、イワナなどが多く生息する清流・気仙川（けせんがわ）は、住田町を源流とし、カキやホタテの養殖が盛んな陸前高田市の広田湾に注いでいます。また豊富な森林資源と木材加工施設があることから「森林・林業 日本一の町」を目指しています。

2021年6月、株式会社ユナイテッドアローズ様のご支援により、上有住地区の0.23ヘクタールの土地に、ウリハダカエデ、ツリバナ、ヤマボウシ、エゴノキの4種類の苗木を合計320本植林しました。本地区は気仙川の源流に位置することもあり、将来的には水源林としての機能向上も期待されます。

植林地は苗木の成長を妨げてしまうほどササが生い茂っていたため、植林前に天然更新したカラマツやナラなどの広葉樹は残した上でササ等の下層植生の刈り払い作業を行い、苗木を植えました。また、鹿の食害を防ぐために、苗木を1本ずつ保護するツリーシェルターを設置しました。

植林した苗木が順調に育っていくために、下草刈りなどの管理や生育調査を続けながら、引き続き植林面積を拡大していく予定です。



project 014

奈良県 天川村

天川村は、紀伊半島の中心部に位置し、村の面積の4分の1が吉野熊野国立公園に指定されるなど、豊かな自然に囲まれています。

2021年6月、more treesは国内のmore treesの森としては16か所目（12地域目）となる包括協定を、奈良県天川村および洞川財産区と締結しました。

デッカーズジャパン合同会社様、三井住友カード株式会社様のご支援により、2021年には1ヘクタールの土地に407本のキハダを植林しました。3本の苗木を1組とし、三角形に密植する「巣植え」という手法で植林しており、成長具合等を見ながら、最終的に3本のうち1本を残し、更なる成長を促します。

植林活動には、地域おこし協力隊をはじめ地元の方々にもご参加いただいております。地域コミュニティの雇用にも貢献しています。

1300年前からこの地域に伝わる歴史ある名薬「陀羅尼助丸（だらにすけがん）」の原材料であるキハダを中心に、将来的には複数の広葉樹で構成される多様性のある森への転換を目指しています。来年以降も植林を継続していく予定です。



project 013

インドネシア 東カリマンタン州

「森の人」 オランウータンが暮らす豊かな熱帯雨林

インドネシアの熱帯雨林はアジア最大規模で、その森林面積は地球上に残存する熱帯雨林の約1割を占めます。しかし過去40年にわたる過剰な森林伐採や森林火災などにより、急激に森林消失が進んでいます。その大きな要因の一つが、パームオイルなどの生産を目的とした開墾のための火入れと、その延焼火災です。パームオイルは食用油や洗剤など、私たちの生活に身近な製品の原料に多く使われています。こうした生産物に端を発した火災の発生による森林消失は、日本に暮らす私たちにとっても決して無関係ではありません。

インドネシア 東カリマンタン州

カリマンタン（ボルネオ）島の豊かな生態系を育む熱帯雨林には、インドネシア語で「森の人」を意味するオランウータンなどの絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息していますが、度重なる森林火災等で生息地を奪われているのが現状です。こうした状況に、more treesは火災跡地等への森林の再生を目指して、オランウータンの保護活動を行う現地の財団とともに、2016年より「オランウータンの森 再生プロジェクト in インドネシア」を開始し、活動を続けています。

2020年12月1日から2021年1月29日までの期間、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて森に還れなくなったオランウータンを支援するため、クラウドファンディングにて「オランウータン緊急支援プロジェクト」を実施しました。多くの皆さまからのご支援により目標金額の¥578,800を達成し、オランウータンの保護活動費などに活用することができました。

森林の再生を目指すため、植林活動も継続的に進めています。2021年には、2.5ヘクタールの土地にオランウータンの餌となる果樹や在来種を計1,000本植林しました。このうち1.5ヘクタール分は、カラーズ株式会社様にご支援いただき実施しています。これまで適宜開催していた現地ツアーは、コロナ禍につき催行を見送りましたが、引き続き現地と連携し、オランウータンや熱帯雨林の現状を伝える取り組みを続けてまいります。



リハビリ中のオランウータン



苗木を植えるための穴を掘る作業



植林作業



講演／イベント／ワークショップ

日本や世界の森林事情をはじめ、森林や木材の魅力、私たちの暮らしと森とのつながり、社会貢献や地域との協働など、さまざまな観点から森について伝える活動を続けています。

また、木に触れ、森を身近に感じられるようなイベントやワークショップを各地で開催し、子どもたちをはじめ幅広い年代の方にご参加いただいています。

こうした学びや体験の場が、森や木への関心を高め、それぞれの立場から次の一歩を踏み出すためのきっかけになると考えています。



東白川村森林づくりフォーラム



西新宿フォレストフェスタ



目黒街角クリスマス

セミナー／講演／シンポジウム

2021年2月27日
「第8回木育サミット」
(主催：認定NPO法人芸術と遊び創造協会 / 東京おもちゃ美術館)

2021年6月30日
「寄付のデザイン—
寄付から生まれるサステナブルな社会とは？」
(主催：株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社三井住友銀行、株式会社ロフトワーク)

2021年9月28日～10月12日
「オンライン連続講座『都市と地域の関係学』」
(主催：一般社団法人more trees)

2021年10月8日
「WOOD CHANGE オンラインイベント」
(主催：TEAM WOOD CHANGE)

2021年11月2日
東京工科大学
「ライブ・エンタテインメント論」

2021年11月27日
「東白川村森林づくりフォーラム」
(主催：岐阜県東白川村)

2021年12月7日
「J-クレジットオンライン説明会」
(主催：Jクレジット制度事務局)

2021年12月21日
桑沢デザイン研究所
「スペースデザイン特論」

他

イベント／ワークショップ

2021年1月24日
「あいおいニッセイ同和損保の森
オンライン木育体験ワークショップ」
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2021年4月～5月
「LEXUS MEETS…“HIBIYA”」
@東京ミッドタウン日比谷

2021年11月7日
「西新宿フォレストフェスタ」
@ザ・パークハウス 西新宿タワー 60

2021年11月19日～12月25日
「ARK HILLS CHRISTMAS 2021」
@アークヒルズ

2021年12月10日～12日
「目黒街角クリスマス」
@スタジオEASE



オリジナルプロダクト/ コラボレーションアイテム/空間

日本は国土の約7割が森で覆われる森林大国でありながら、輸入材との競争や木材需要の低下から国産材の価格が下落し、林業は衰退の一途をたどっています。適切な手入れがされずに放置されたままの森は、環境や生態系のバランスが崩れ、土砂災害などの被害をもたらす原因にもつながります。

こうした現状を改善するため、more treesでは間伐などの森林整備とともに国産材の活用を推進し、デザイナーや地域の職人と協働でオリジナルプロダクトの企画・製造・販売を行っています。

また、国産材などの森の恵みを活用したノベルティ、コラボレーションアイテムの企画・開発・製造や、国産材を活用した空間デザインから店舗什器の製作、木材の提供まで、さまざまなシーンで国産材利用のきっかけづくりをサポートしています。



ロンハーマン クリスマスオブジェ



Ryuichi Sakamoto [2020S]



KRUG お箸・箸置きセット



AIGLE シューフレッシュ



UGG 店頭POP

コラボレーションアイテム事例

Art Box Project 2020
Ryuichi Sakamoto『2020S』
木製特殊仕様の「はこ」の制作

KRUG
キャンペーンノベルティ（お箸・箸置きセット）

BMW
キャンペーンノベルティ（ノート）

AIGLE
キャンペーンノベルティ（シューフレッシュ）

東京ステーションホテル
チャリティオーナメント

他

空間・什器事例

コスメキッチン
丸太ディスプレイ什器（銀座三越店 他）

ロンハーマン
クリスマスオブジェ（千駄ヶ谷店 他）

THE BODY SHOP
丸太ディスプレイ什器（福岡パルコ店 他）

UGG
店頭POP（全36店舗）



脱炭素社会に向けた森林の役割

森林はCO2を吸収し固定する機能を持っており、気候変動対策としても大きく寄与することが知られています。2021年4月には菅義偉前首相がパリ協定の2030年度温室効果ガス削減目標を従来の26%から46%（2013年度比）へ大幅に引き上げた新たな削減目標を掲げました。同時に森林吸収源による目標値も2%から2.7%へ引き上げられ、気候変動対策としての森林の役割はより一層重要性を増しています。

森林を通じて気候変動へ貢献する方法としては、人工林での間伐等を実施し持続可能な森林経営を促進することや植林によって吸収源を増やすことなどが挙げられます。つまり、森林を保全することは気候変動対策に直結するのです。

加えて脱炭素社会に向けた手段の1つとして「カーボン・オフセット」の活用もあります。カーボン・オフセットとは、企業活動などで削減しきれず排出したCO2を別の場所での吸収/排出削減量でオフセット（相殺）することです。CO2排出量に見合った金額を支払い、カーボンクレジット（CO2吸収量/排出削減量を価値化したもの）を購入することでオフセットされます。more treesは森林由来のカーボンクレジットを提供しています。

近年の世界的な脱炭素社会に向けた動きにより、日本でも2008年にカーボン・オフセットの普及が本格化して以来、かつてないほど注目が高まっています。2021年も森林由来のクレジットに魅力を感じていただいた多くの企業にカーボン・オフセットをご活用いただきました。

※カーボン・オフセットの活用事例は13ページをご参照ください

お風呂理論

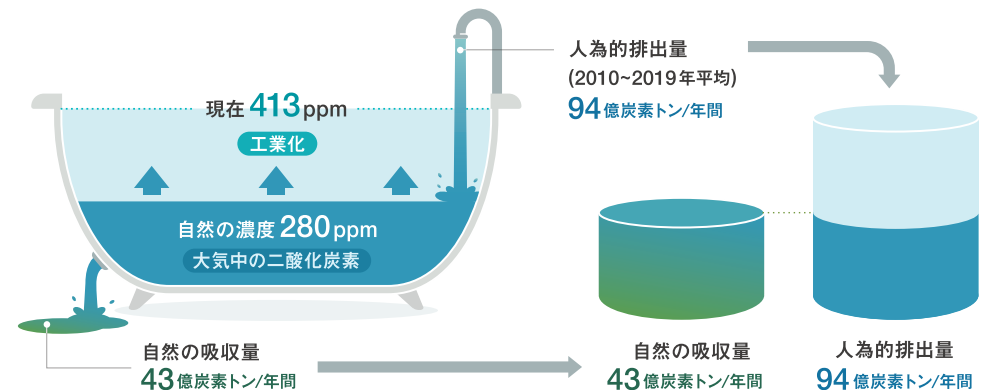
地球の大気中にあるCO2をお風呂の水量に例え、その現状や対策についてわかりやすく表現した「お風呂理論」という考え方があります。産業革命以前は、蛇口から流れる水量（排出量）とお風呂から出ていく排水量（森林、海洋などの自然の吸収量）はバランスが取れていましたが、産業革命以降、蛇口から流れる水量（排出量）の急激な増加と森林の減少・劣化により、お風呂の水位（大気中のCO2量）が上がり続けているのが現状です。

水位のバランスを取り戻すには、

- ① 蛇口を締めること（排出量の削減）
- ② 排水量を増やすこと（自然による吸収量の増大）

を同時に行うことが重要です。

この①と②を価値化したカーボンクレジットも省エネにより実現したある一定量（ベースライン）からの削減量を認証する排出削減系と、森林の適切な管理によるCO2吸収の増大量を認証する森林吸収系の2種類に大きく分類されます。これまでは排出削減系クレジットが多く流通してきましたが、脱炭素社会の実現に向けて排出削減努力を行うことが当たり前となりつつある今、排出削減系クレジットは「追加性（価値）」の減少が見込まれます。つまり、中長期的な目線で考えると森林を中心とした自然による吸収量を増やしていくことが重要となるのです。



出典：Global Carbon Budget 2020

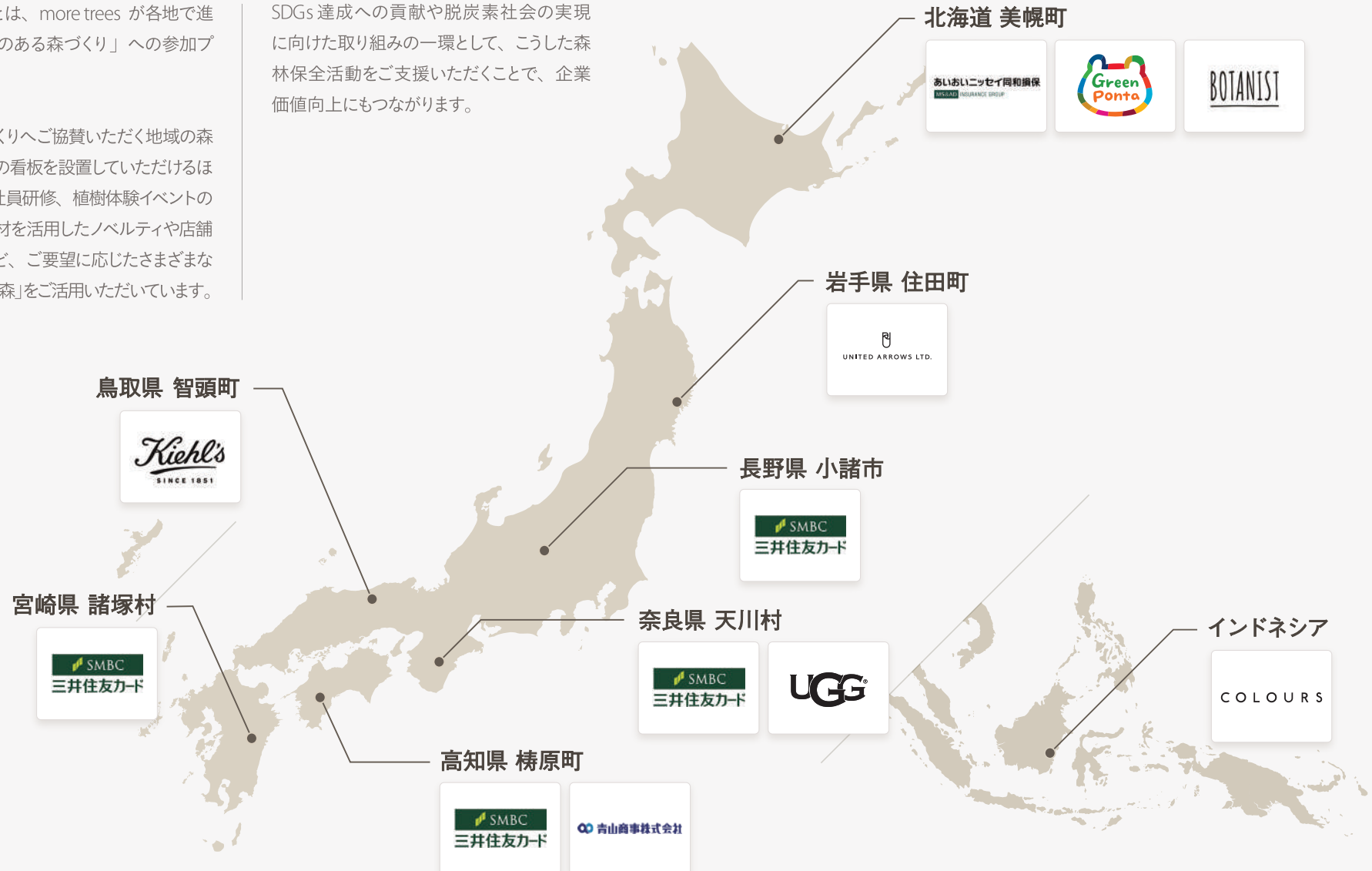
企業の森

Forest Creation Partners

「企業の森」とは、more trees が各地で進める「多様性のある森づくり」への参加プログラムです。

継続的に森づくりへご協賛いただく地域の森に企業・団体の看板を設置していただけるほか、ツアーや社員研修、植樹体験イベントの開催、地域産材を活用したノベルティや店舗什器の製作など、ご要望に応じたさまざまな方法で「企業の森」をご活用いただいています。

SDGs達成への貢献や脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、こうした森林保全活動をご支援いただくことで、企業価値向上にもつながります。





商品やサービスと連動したご寄付

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

- 約款のWEB化により実現した資源のコスト削減分の一部をご寄付

三井住友カード株式会社

- ご利用代金明細書のWEB化により実現した資源・郵送にかかるコスト削減分の一部をご寄付

日本ロレアル株式会社

- 店舗にてショッピングバッグをご辞退いただいたお客様の数に応じたご寄付
- オンラインストアにおいて、お客様が行った森林保全活動へ賛同する行為（該当項目のクリック）の数に応じたご寄付

デッカーズジャパン合同会社

- UGG「Icon Impact」の売上の一部をご寄付

株式会社サザビーリーグ（Afternoon Tea）

- コンパクトバッグの販売数に応じたご寄付
- チャリティ企画「TEAすべて¥111」期間中の飲み物の販売数に応じたご寄付
- チャリティ企画「Reborn the TEAPOT」におけるティーポットの販売数の全額をご寄付

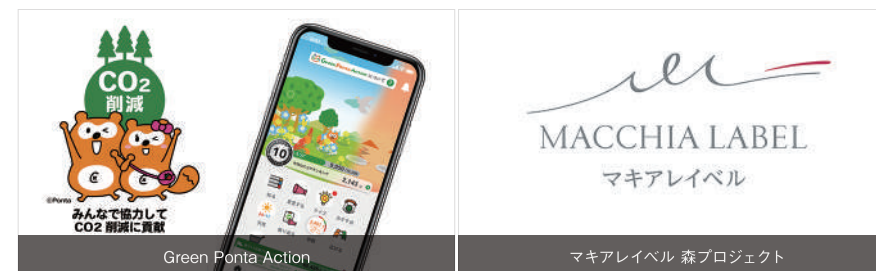
MHDモエ ヘネシー ディアジオ株式会社

- ゴールデングローブ賞におけるチャリティ活動「Toast for a Cause」によるご寄付

TRACE HAIR

- 1% for the Planet の活動として、「TRACE Bricolage 痕跡」売上の1%をご寄付

カーボン・オフセット活用事例



株式会社ロイヤリティ マーケティング

- アプリ「Green Ponta Action」上でのユーザーの活動量に応じたオフセット

株式会社 JIMOS

- 「マキアレイベル」の商品販売数1点につき、100gのCO2をオフセット

株式会社ニューポート

- 事業活動（商品の輸入・配送、提携倉庫での商品保管等）により排出されたCO2をオフセット

株式会社スーパーホテル

- 公式ホームページからの予約分について、宿泊に伴い排出するCO2をオフセット（エコ泊）



協賛者様一覧

Supporters of More Trees

 株式会社ロイヤリティ マーケティング	 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	 三井住友カード株式会社	 日本ロレアル株式会社 (キールズ)	 株式会社ジュン	 カラーズ株式会社	 株式会社 ユナイテッドアローズ
 MHD モエ ヘネシー デリアジオ株式会社	 青山商事株式会社	 株式会社 エヌ・ティー・エイチ	 第一生命保険株式会社	 デッカーズジャパン 合同会社	 株式会社ニューポート	 ユニプレス株式会社
 株式会社星道	 アモレバシフィック ジャパン株式会社	 株式会社薬匠三全	 株式会社カズマ	 株式会社スターテック	 野原ホールディングス 株式会社	 ビー・エム・ダブリュ 株式会社
 株式会社 ラコステジャパン	 株式会社 3and garden	 高砂熱学工業 株式会社	 スピークス株式会社	 株式会社 カネボウ化粧品	 神商鉄鋼販売株式会社	 株式会社 プリプレス・センター
 伊藤忠リーテイルリンク株式会社	 イトキン株式会社	 シャボン玉石けん 株式会社	 大昭和紙工業 株式会社	 合同会社nodo	 フイトンチッドジャパン 株式会社	 株式会社プライマル
 ウィルライフ株式会社	 株式会社栗原	 株式会社JIMOS	 ヤフー株式会社	 株式会社 オリエン トコーポレーション	 株式会社キューブ	 株式会社Asste

株式会社中島重久堂 | 株式会社コロット | 日本ホテル株式会社 | 株式会社ウェイトボックス | 株式会社サニーサイド | 日興アセットマネジメント株式会社 | 株式会社ツクルバ | 株式会社ウィファブリック | 株式会社ネイチャーズウェイ
 株式会社アンブラージュインターナショナル | 株式会社インプレス | シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 | 医療法人社団 湘南太陽会 | 株式会社スタンダード | 株式会社スタイリングライフ・ホールディングス | アンスティチュ・フラン日本
 株式会社ベルモ | 株式会社五色 | TerraCycle Japan | 有限会社タカタ建設 | 株式会社エス・ティー・シー | エイベックス・エンタテインメント株式会社 | 株式会社アンサンブル | 株式会社サザビーリーグ (ARTIDA OUD) | 株式会社マアル
 アサヒベットの株式会社 | 株式会社アーチ | 株式会社アルペロ・ブル | 株式会社NTTスマイルエナジー | 株式会社キゴコロ | 株式会社クリックローバー | 株式会社クレコス | 第四信庫.ドットツー | 株式会社TwoTrees | 株式会社TOTONOU
 株式会社日本グリーンエナジー | プラス・シー株式会社 | 株式会社マザーアース | 株式会社みらいアーキテクト | Mother's Industry株式会社 | 合同会社ミアーズ | 株式会社大和屋 | 株式会社ライブス | 株式会社リソウ | 有限会社和田植木

※本報告書に記載の法人・個人様の名称につきましては、敬称を省略させていただいております。何卒ご了承ください。



これからも「都市と森をつなぐ」をキーワードに活動を進めてまいります。
引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

法人概要 Corporate Profile

一般社団法人 more trees

151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-9-11 フレンシア外苑西 103
Tel 03 (5770) 3969
Fax 03 (5770) 3896
Mail info@more-trees.org
URL <https://www.more-trees.org>

事業内容

- ・国内外での森林保全（間伐／整備、植林など）
- ・森林に関するセミナー・イベント、森林を訪れるツアーの企画・開催
- ・国産材アイテムの企画・販売
- ・森林由来のカーボン・オフセットサービスの提供
- ・被災地支援活動
- ・その他、森林に関する事業全般

設立

2007年7月19日

役員

代表理事 坂本龍一
理事 池田正昭、見城徹、石橋直樹
監事 山崎卓也

※本レポート内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください。

FSC マーク